

心電図

今回紹介する検査は、「心電図」です。実は最近、灘診療所の心電図の機械が、十ウン年ぶりに新しいものになりました。「心電図」という検査は実に古典的で、私が医学生だった頃、医者になってから、そして現在に至るまで、全く変わりがありません。両手両足につける「洗濯ばさみ」と、胸板に引っ付ける「吸盤」の質が多少良くなったくらいでしょうか。でも、心電図は日常診療だけではなく、健康診断などでもなくてはならない大事な検査です。

心臓はヒトが生きている間、一刻も休むことなく全身に血液を送り出しています。この重労働を担っているのが「心筋」という筋肉のエリートです。そして、その筋肉に命令を送っているのが、「刺激伝導系」という司令部で、ここから発生した生体電流が心筋を刺激して心臓を動かしているのです。

この電流を色々な方向から測定し、心臓に異常がないかどうか調べるのが「心電図」です。ただ、心電図というのは読み方に技術が多少必要で、我々医者は、研修医の頃にこの心電図の読み方をみっちりしごかれます。最近は診断機能のついた心電図機械も増えてきましたが、やはり最終診断は、医師による心電図の読解と患者さんの症状の突き合せになります。

新しい心電図の機械は、診察室の電子カルテと連動し、より使い勝手が良くなりました。末永くご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。